菊名記念病院

年報(2025年４月～2026年３月)発刊にあたって

ごあいさつ

前年度のご報告をお届け致します。
ご笑覧戴き、ご意見等を賜われば幸甚に存じます。

我々医療機関に於いては「コロナ禍」以降様々な変化が起きている。
第一に患者さまの受療行動の変容で、外来受診回数の減少、オンライン診療の増加、加えて処方薬の宅配サービス利用まで起きている。これ等の影響は主にクリニックには大きいが急性期医療中心の当院にとって直接的な影響は少ない。むしろ危惧されるのは自己判断による治療機会の損失と重症化症例の増加であるが、マクロで視れば社会の効率化進展の意義の方が大きいかも知れない。

更なる変化はあらゆる事柄の進行速度が早まっている事である。従来の様々な予測値に比して多くの指標が前倒しで実現しており、「少子化」特に合計特殊出生率の低下は危機的といってよく、結果として人手不足解消の可能性は更に低くなり、人材紹介会社の暗躍が医療費を食潰す構図は更に拡大し、加えて人口減社会における医療需要の減少がすぐそこまで迫ってきている。ほぼ10年前のデータを基に策定された「２０２５年に向けた」地域医療構想ではこの様な現状を予測できておらず、新たに始まる「２０４０年に向けた」地域医療構想では我々急性期医療の領域への様々な是正圧力が突き付けられ、組織改革、生残りを懸けた戦い、更には自院の方向転換も余儀なくされる。「コロナ禍」の痛手から立直る前に新たな難問が山積しているのである。

本年報にも示されている様に、YMGでは新執行部による様々な試みにより菊名記念病院も含めこの厳しい戦場からの撤退は一応避ける事ができたが、新たな難関に対処し「求められる医療」を実践する為には、職員諸氏の危機感の共有、新たな領域への挑戦意欲、加えて全医療従事者の「PATIENT FIRST」の励行が何よりも求められている。

皆様の忌憚ないご意見、ご指導、ご協力をお願い致します。

理事長 山本　登